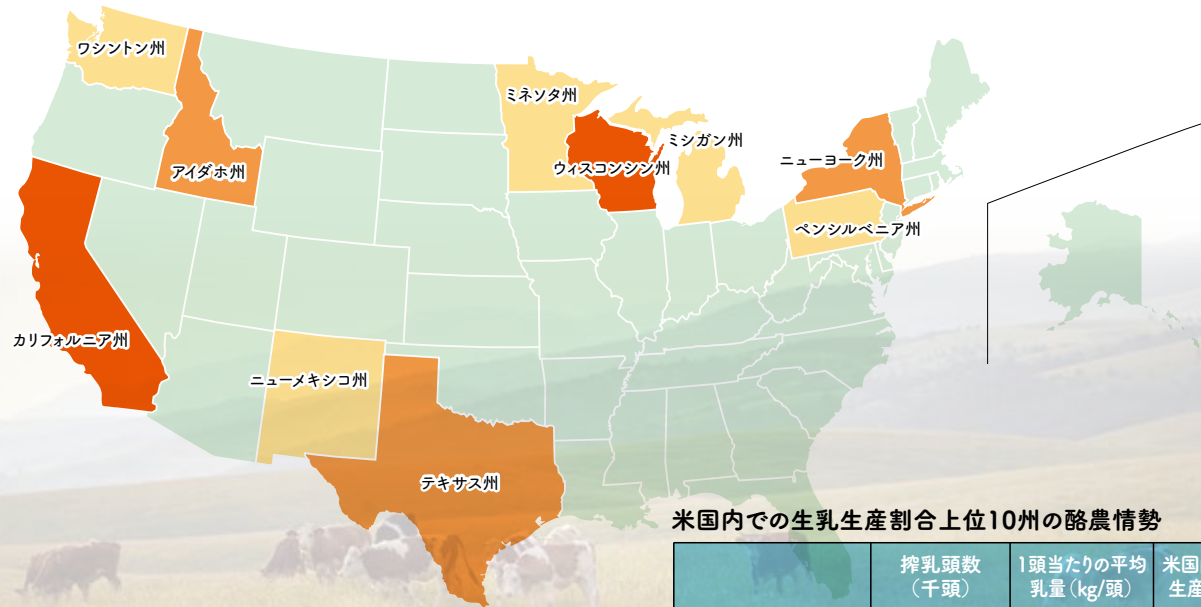


図4 米国の主要な生乳生産州

※出典:USDA-NASS



米国内での生乳生産割合上位10州の酪農情勢

	搾乳頭数 (千頭)	1頭当たりの平均 乳量 (kg/頭)	米国内での生乳 生産割合 (%)
1 カリフォルニア州	1,714	10,824	18.07%
2 ウィスコンシン州	1,270	11,473	14.19%
3 アイダホ州	667	11,443	7.43%
4 テキサス州	642	11,704	7.32%
5 ニューヨーク州	630	11,577	7.10%
6 ミシガン州	438	12,503	5.33%
7 ミネソタ州	452	10,537	4.64%
8 ペンシルベニア州	466	9,597	4.36%
9 ニューメキシコ州	271	11,152	2.94%
10 ワシントン州	258	10,824	2.75%

日本・米国の酪農データ比較

	搾乳頭数 (千頭)	1頭当たりの平均 乳量 (kg/頭)	国別総生乳 生産量 (百万kg)
日本全体	837	8,725	7,299
米国全体	9,386	10,939	102,677

マイナー研&駐在員をご紹介します

JA全農畜産生産部
飼料畜産中央研究所研究職員
大和田 尚さん

2015年:東京農工大学大学院農
学府 修了

2015年:JA全農 入会 畜産生産
部 飼料畜産中央研究所
笠間乳肉牛研究室

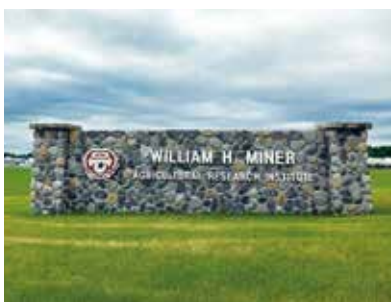
2020年:JA東日本くみあい飼料株
式会社 出向

2024年:JA全農 畜産生産部 飼料
畜産中央研究所 笠間乳
肉牛研究室 ウィリアム・H・
マイナー農業研究所 駐在



ウィリアム・H・マイナー農業研究所

搾乳牛を約500頭飼養する、米
国内でもトップクラスの研究所。教
育や地域貢献にも力を入れており、
大学生を対象とした農場実習や、
ニューヨーク州立大学ブラツバ
ーグ校の調査研究拠点としての施設
開放などを行っています。また、周辺
地域の酪農家(カナダを含む)に最
新の酪農情報を提供しています。



② 米国の乳価

米国では生乳は用途別にクラス分けさ
れており、用途別の利用数量に対して加重
平均した金額が乳価として支払われます。
そのため、乳製品の消費動向などにより乳
価が乱高下しやすいシステムとなっており、
結果として乳価の変動による経営的なリ
スク低減のために農場の大規模化が進ん
でいます。

低く、西部では北東部と比べると乳価が
多い要因の一つとされています。さらに、
大規模化するためには新たな牛舎の建設
が必要となります。新しい牛舎では高度な
テクノロジーや効率的な牛舎構造などが活
用でき、1頭当たりの生産効率が向上し、
生産単価の圧縮が実現できています。一方、
米国内では中小規模の酪農場にとっては
乳価の乱高下により経営が厳しい場面が
多くなっているのも事実です。

ZEN-NOH vol.20 海外レポート アメリカ合衆国 United States of America (USA) 米国の酪農情勢と乳価について 大和田研究員が解説 JA全農提携ウィリアム・H・マイナー農業研究所

米国の搾乳頭数は2004年まで減少
傾向でしたが、それ以降は増加傾向となっ
ています。一方、総生乳生産量は年々増え
ています(図1)。これは1頭当たりの平均
乳量が増えていることに起因します。
1頭当たりの平均乳量は、日本にお
いても増えています。米国はそれを上

① 米国の酪農情勢

米国の酪農・畜産業界に関する最新
技術に関する大和田研究員が、
米国における最新の酪農情勢などにつ
いてレポートします。

JA全農は、1996年から業務提
携する米国ニューヨーク州のウィリア
ム・H・マイナー農業研究所(以下、マイ
ナー研)に研究職員を毎年1人派遣し
ています。2024年4月からは大和
田尚研究員が駐在しています。今回は、
日頃からマイナー研との共同研究に加
え、米国の酪農・畜産業界に関する最新
技術に関する大和田研究員が、
米国における最新の酪農情勢などにつ
いてレポートします。

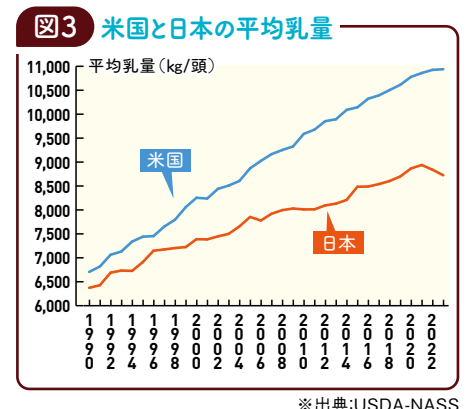
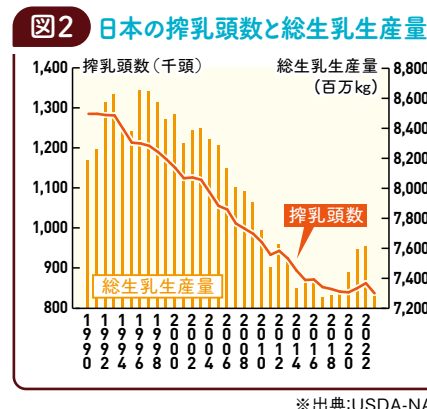
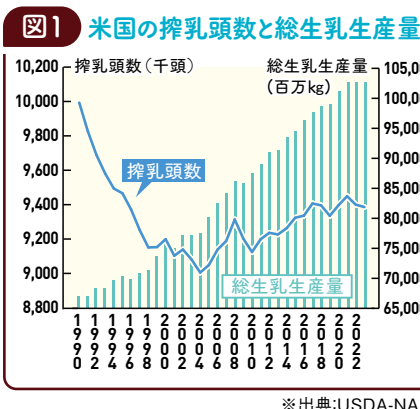


回る勢いで増えています(図3)。米国に
おける1頭当たりの平均乳量増加には、
飼料管理技術や牛舎構造の改善が貢献
していると報告されており、2000年
以降の平均乳量の増加には遺伝的な改
良が79%以上貢献していると Council
on Dairy Cattle Breeding(CDCB)
が発表しています。

米国で最も搾乳頭数が多いのは、171
4千頭のカリフォルニア州(米国の生乳生
産量に占める割合は約18%)です。次に多
いのは1270千頭のウィスコンシン州(同
約14%)。その他、アイダホ州が667千頭
(同約7.4%)、テキサス州が642千頭
(同約7.3%)、マイナー研があるニュー
ヨーク州が630千頭(同約7.1%)と
続きます(図4)。

カリフォルニア州をはじめとした米国西
部の酪農は1軒当たりの平均飼養頭数が
1000頭を超えており、大規模農場が
非常に多いことが特徴です。一方、ニュー
ヨーク州やペンシルベニア州などの北東部
は、平均飼養頭数が300頭未満と報告
されています。西部と比べると比較的小
規模の農場が多いエリアとなります。この
違いは、各地域で生産できる作物や労働力
を確保する難易度などさまざまな要因が
あります。

日本と米国の酪農情勢を比較!



※出典:USDA-NASS

※出典:USDA-NASS

※出典:USDA-NASS